

「自律」そして「心（人間力）」を育む旅行行事 ～修学旅行、Grow Schoolでの変革と感動～ ※「学校あるある」からの脱却

おおぐろの森中学校の木々の若葉がみずみずしく、日差しも強く感じられる季節になりました。新年度がスタートして2か月が経過し、学校も軌道に乗り、元気で心ある生徒の活動に心が癒されます。今月号のテーマは「旅行行事」です。

まずは修学旅行、5月21日（日）から2泊3日で京都、奈良に行ってまいりました。3学年のスローガンは『「縁陣」～団結・縁・エンジン～』でした。生徒たちや職員が考えて新たな時代や目標に向けて修学旅行の企画を変革したこと、私自身が感動したことを以下に書き記したいと思います。

<大きな変革> ～「学校あるある」からの脱却～

- ①往復の新幹線、奈良、京都間往復のバス座席、2日間それぞれの班別行動において、仲間が全てシャッフルされ、誰とでも分け隔てなくコミュニケーションを図れる環境を創造した。
- ②校則のない本校らしく、ルールをマナー（心）でカバーし、約束事に縛られずに行動した。もちろん個人のスマートフォンの使用もOKであった。
- ③2日目の京都市内班別行動では、私服や制服など自ら考えた身なりで見学した。
- ④3日目の班別行動では、班ごとに様々な国の留学生と国際色豊富な人柄、会話や感性を感じながら京都市内を廻った。

<感動したこと>

- ①様々な場面で学校生活の班にとらわれず、様々な友人と触れ合うことで縁を感じ、それぞれが多様な考え（多様性）を尊重しながら、気配りのある、ほのぼのとした仲間関係が随所に見受けられ、心が温かくなった。
- ②社会に通用するマナーと心、特に1日目の昼食場所（天平倶楽部）でのお店の方が出口で見送ってくださった時の生徒一人一人が「ごちそうさまでした」「ありがとうございました」の自然に表現した心からの挨拶があったことに深く感動した。また、スマートフォンやデジタル一眼レフカメラを使用しての個人での撮影も世の流れどおり違和感を覚えず自然であり、うれしかった。2名ほどスマートフォンを紛失した生徒もいたが、その事後対応の方法を職員、生徒、保護者と協議及び実施し、最終的には2名とも手元に戻ってきた。この失敗も学びであると実感している。
- ③京都、奈良に来ていた他の学校は、制服で統一されている学校がほとんどであった。まれに全員が私服で統一された学校もあったが、本校のような私服と制服が入り混じった学校は見られなかった。生徒が自ら考え選択して身なりを整えることに感激した。また、妙心寺での座禅体験では全員がTPOを考え、頭の前からつま先まで正装された身なりには、心が揺さぶられた。
- ④留学生との別れ際、握手やハグ、涙する生徒を見て多くは語らないが深く深く、感動した。

次に、Grow School（林間学園）、5月28日（日）から2泊3日で福島県（いわき市、猪苗代町、会津若松市）に行ってまいりました。2学年のスローガンは『「心」～自律・自主性の育成～』でした。

<大きな変革> ～「学校あるある」からの脱却～

- ① ICT 機器(スマートフォン等)の持ち込み及び使用を各生徒、保護者の判断とした。
- ②旅行中全ての場面で身なりについては、各個人に任せ、学校ジャージ、制服、私服、パジャマ等、個々が考えて過ごした。
- ③入浴時間をクラス単位で割り振りせず、長い入浴時間の中で生徒個人が選択して入浴時間を決められる設定とした。
- ④おやつタイムや様々な場面、時間での飲食、お土産購入の場所等の指定はせず、それぞれが考えて行動した。

<感動したこと>

- ①砂浜での震災学習で語り部さんが話をしているとき、スマートフォンを活用して素早いフリックでメモを取る生徒を目の当たりにした時に、禁止ではなく、活用の仕方だと改めて実感した。また、それぞれの生徒が写真を撮り、記録を残す姿も自然であり、時代に合わせた電子機器の活用は学校教育全ての場面で生かすべきと考える機会となった。
- ②杓子定規に規定された身なりではなく、それぞれが考えた個性豊かな身なりの整え方に、普段発見することのできない心の表現があったように感じた。身なりは一つの心の表れと個人の表現力とも考える。これからも生徒に考え感じさせたいところである。
- ③クラス単位の入浴時間の撤廃はある意味、譲り合いの精神や少々込み合っている入ってしまうのか、空いているところを狙って広々と入るのか、自らが考えて選択できる、社会に通用する変革であったと捉えている。特に課題となるところはなかった。個人の旅行でも同じであることは言うまでもない。
- ④おやつ、飲食、買い物等、生徒たちは実に巧みであり、お金の計算をしながら上手に行動していた。「おやつの食べ過ぎ」「お金の使いすぎ」「飲食マナー」そんなことは生徒に考えてもらえばいい、中学生なのだから。学校できまりをつくって設定し、守られなければ指導する。そんな時間はもったいないと思う。そんな時間があったら教員は生徒と触れ合う時間にしたほうがいい、生徒を一人の人間として尊重して任せる。成功例と実感している。

いずれの旅行行事もおおぐろの森中学校ならではのものであり、「心(人間力)」、「社会に通用する行動力」や「自律の精神」を育む旅行を各学年の生徒、教職員が創造して計画しました。そして、旅行中、生徒たちは自ら考え、選択して、生き生きと明るい表情で3日を活動し、それが十分に実感できる旅行でした。また、心温まる場面もたくさんありました。ぜひともその様子をホームページに掲載していますのでご覧いただきたいと思います。

生徒や職員が同じベクトルに向かい、「学校あるある」から脱却して、自走して創る「修学旅行」、「Grow School」まさに、おおぐろ中ブランドは毎年、アップデート、バージョンアップしています。知恵と創造力を発揮してくれる生徒、教職員の皆様、そしてそれを支えてくださる保護者、地域の皆様に感謝するとともに深く御礼申し上げます。